北方山草（41）：70-74. March 2024

函館市各地にミヤマキケマン

函館市　**酒井　信**

2022 年の 6 月上旬、函館市郊外でミヤマキケマン *Corydalis pallida* (Thunb) Pers. var. *tenuis* Yatabe の生育を確認した。この時期のキケマン類は、道内の図鑑などではエゾキケマン *C. speciosa* Maxim. が記載されており、筆者も函館近郊で見るものはエゾキケマンンと思い込み整理していた。ただ、函館山のいつも観察に行く地点付近で近寄って観察できない所に生育するキケマン類が雰囲気が違って見え気になっていた。その後、その株は消滅したため、関心も、検討も立ち消えになっていた。その頃、顕微鏡が無くてもレンズの逆付けによる「リバース・マクロ」により、微小な花や種子、果実の観察、撮影ができることを知り、それらの観察・撮影に興味を持つようになっていた。上記のミヤマキケマンも、マメのような鞘で種子によるくびれが目立ち、いかにも採種・撮影してみたくなるものであった。撮影した画像を見ると、その種子は透明な大きな膜状のエライオソームを伴って、表面に多数の円錐状の突起が見られた。立ち消えになっていたキケマン類に、にわかに興味が再燃した。翌 2023 年の調査で、当所での再確認、および函館市内で次々とミヤマキケマンが確認された。この結果を報告する。

ミヤマキケマン、道内の分布など

ミヤマキケマンの分布域は本州・四国（福原 2016）とされ、北海道の主な図鑑や北海道維管束植物目録（松井・高橋 2015）などにも記載なく、北海道には分布しないようである。しかし、少し古くなるが函館山植物誌（菅原・小松 1959）に、あるいは博物館の収蔵品目録（市立函館博物館 1997）にミヤマキケマンの記載が見受けられる。ミヤマキケマンと確認できていないのであろうか。最近、このミヤマキケマンが北海道に分布しているとする報告が出された（山岸・首藤 2023）。函館での発見、標本の再同定、白老町と苫小牧市での追加調査で生育が確認されている。この結果から道内の分布について、「稀ではあるものの北海道南西部に広く分布していることを示唆する」としている。

エゾキケマンとミヤマキケマンの識別点

エゾキケマンとフウロケマン *C. pallida* var. *pallida*（ミヤマキケマンはフウロケマンの変種）は種子の表面の突起で区別される。エゾキケマンの種子表面の細胞はレンズ状に盛り上がるが突起はなく、フウロケマンは表面に円錐状の突起がある（福原 2016）。なお、同じように種子で両種を区別しているが、エゾキケマンについて、表面に細凹点があるとする図鑑類がある（大井・中川 1992、北村・村田 1992 など）。

フウロケマンとその変種ミヤマキケマンはともに種子表面には円錐状突起がある（三河の野草観察　URL: https://mikawanoyasou.org/data/miyamakikeman.htm